

市場関係者様向けプレゼンテーション 国際緊急援助隊 活動概要



2023年7月19日
国際緊急援助隊事務局





国際協力機構（JICA）

日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「**すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発**」というビジョンを掲げ、多様な援助手法のうち最適な手法を使い、地域別・国別アプローチと課題別アプローチを組み合わせ、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

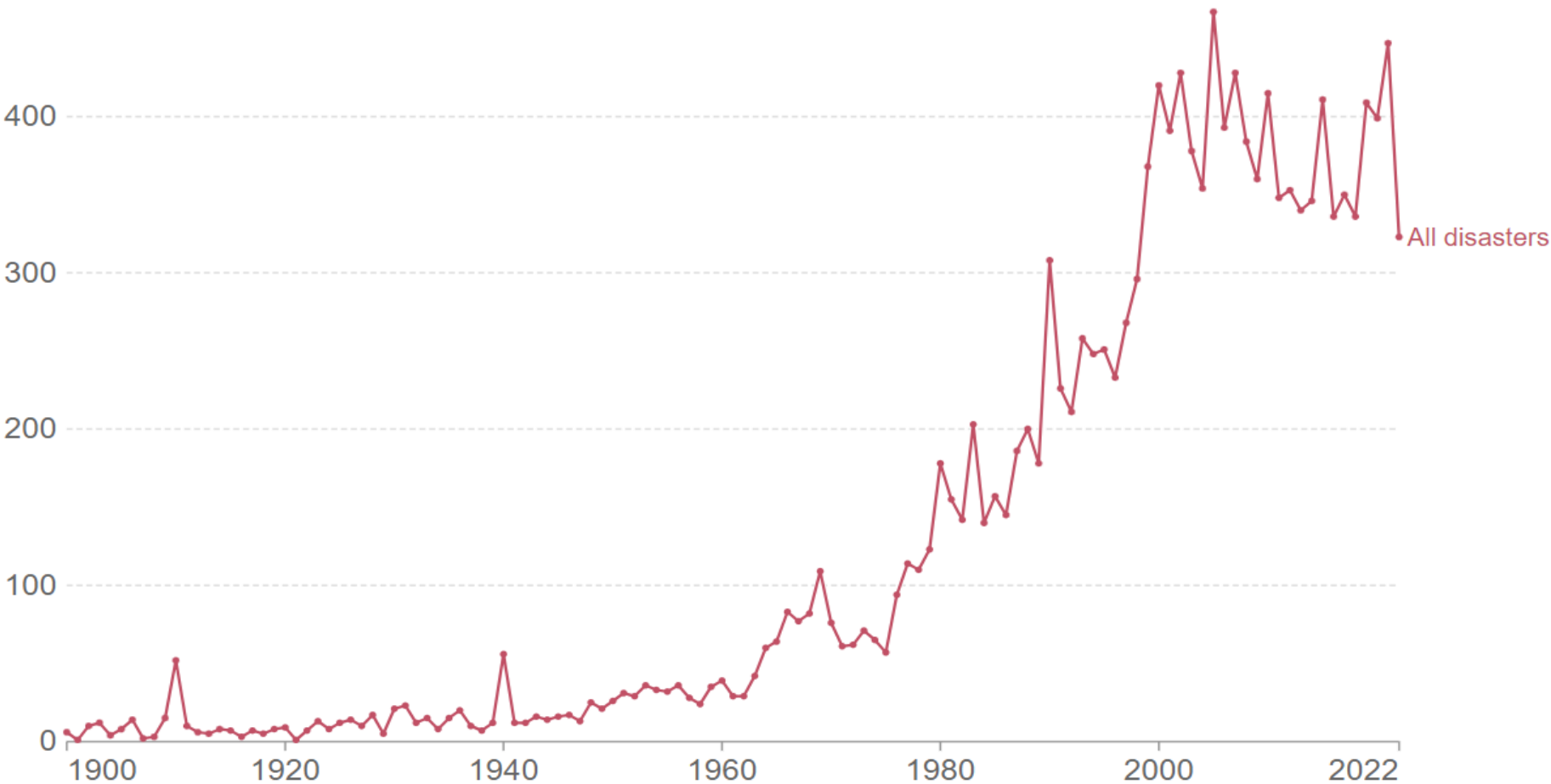
主な協力形態



世界規模での大規模災害の増加

Number of recorded natural disaster events, 1900 to 2022

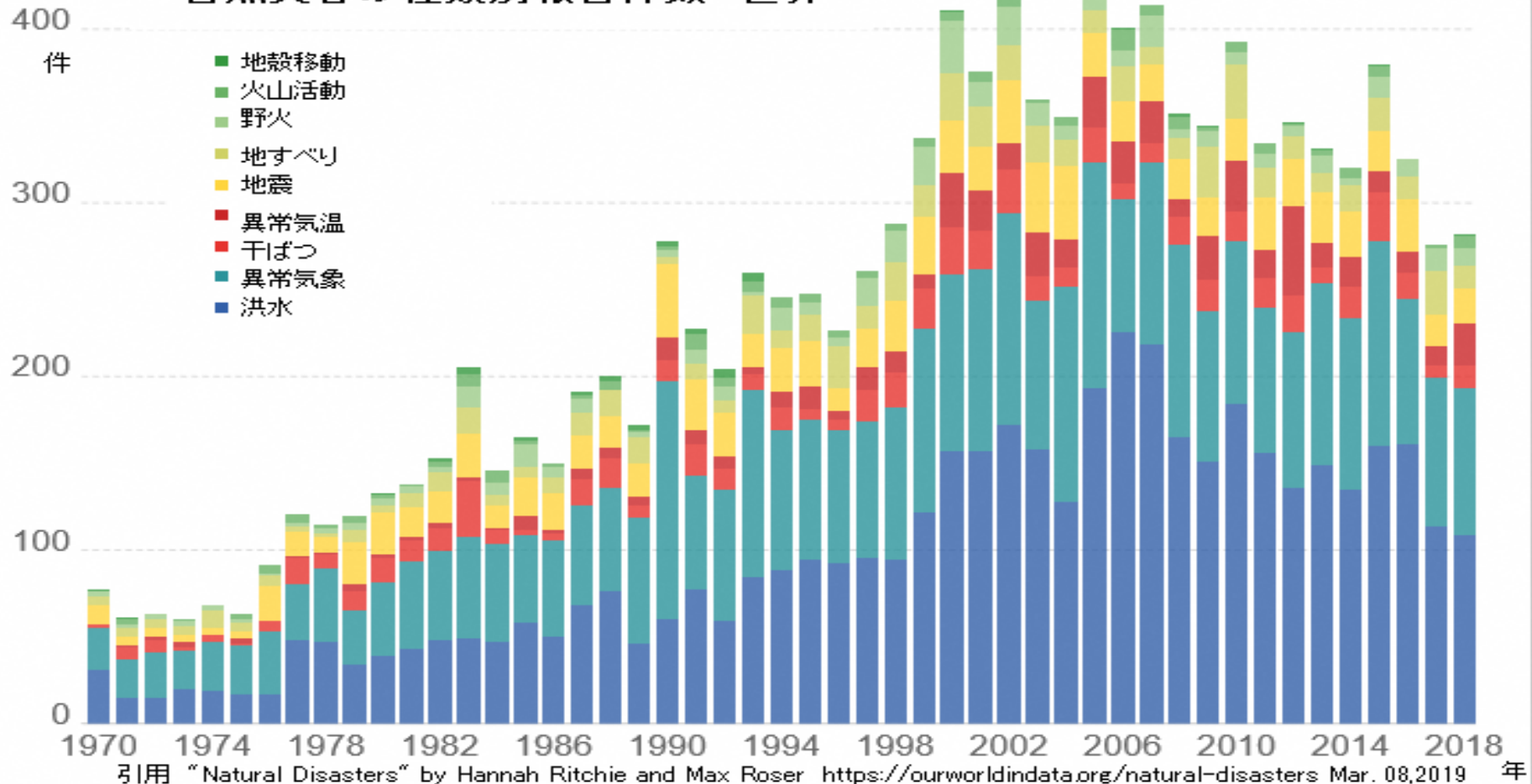
The number of global reported natural disaster events in any given year. This includes those from drought, floods, extreme weather, extreme temperature, landslides, dry mass movements, wildfires, volcanic activity and earthquakes.



Source: EM-DAT, CRED / Université catholique de Louvain, Brussels (Belgium)

OurWorldInData.org/natural-disasters • CC BY

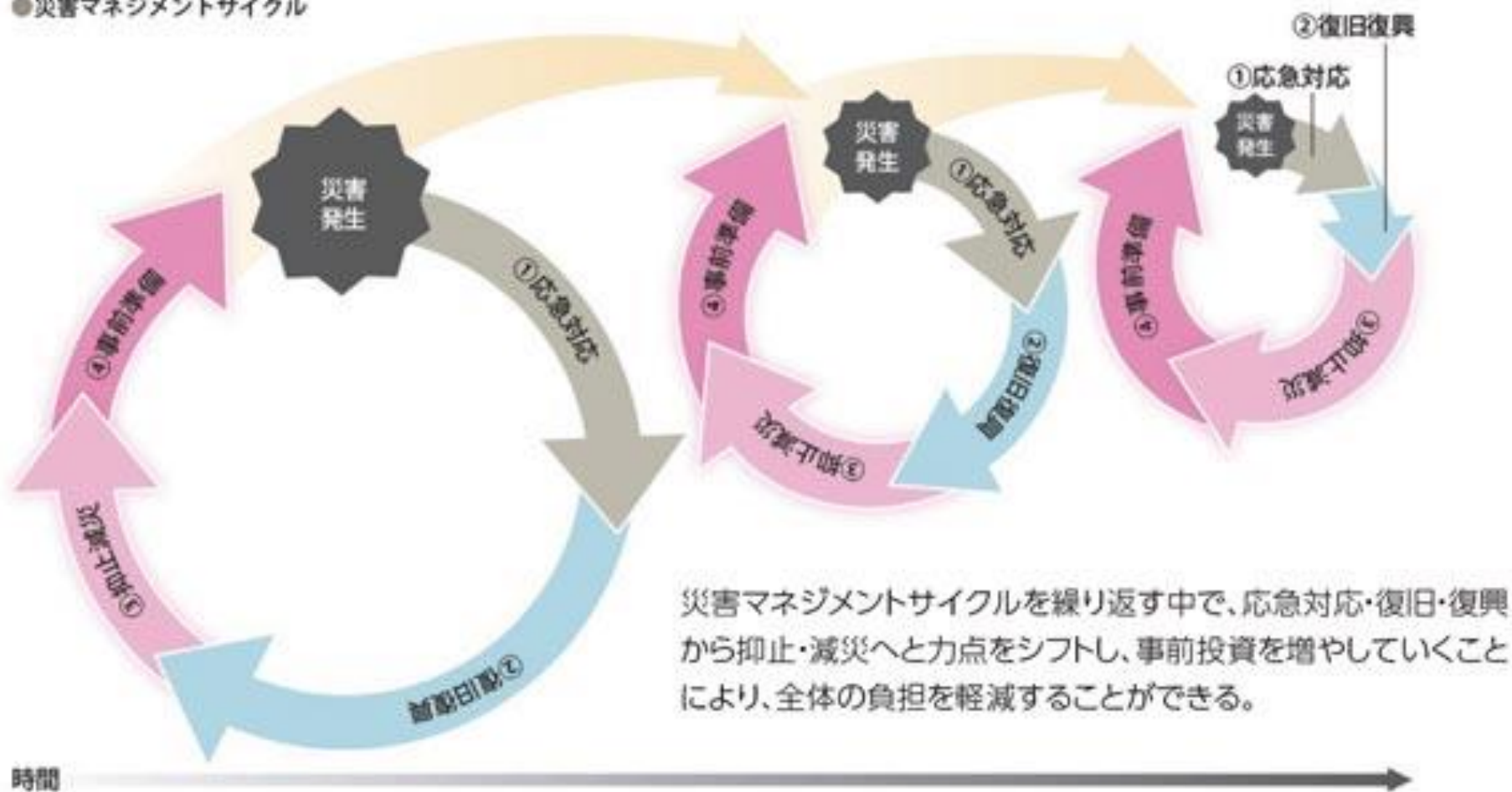
自然災害の種類別報告件数 世界



- 大規模災害の増加 気候変動、地下活動の活発化
- 被災規模の拡大 居住範囲の拡大 災害脆弱地への住居拡大
- 災害の激甚化 災害規模の拡大 複合化 都市機能の集積
- 防災・災害対策の限界 行政能力を超える災害 社会のレジリエンス

災害マネジメントサイクル

●災害マネジメントサイクル



国際緊急援助隊

1. 唯一の**緊急人道支援**担当部門
2. 異なる**法的枠組み**
 - ✓ 「**国際協力機構法**」
+ 「**国際緊急援助隊の派遣に関する法律**」
 - ✓ 外務大臣の命令
3. 行動特性 ～ 迅速性
 - ✓ 発令後**48時間**以内の展開
 - ✓ 常時**365日24時間スタンバイ**

災害の種類と日本の緊急・人道援助

自然災害

地震、津波、洪水、台風、
干ばつ 感染症拡大 など

人為的災害

紛争に起因しない災害

石油流出、ガス爆発、
ビル倒壊など

紛争起因の災害

難民の流出
インフラ破壊による被害

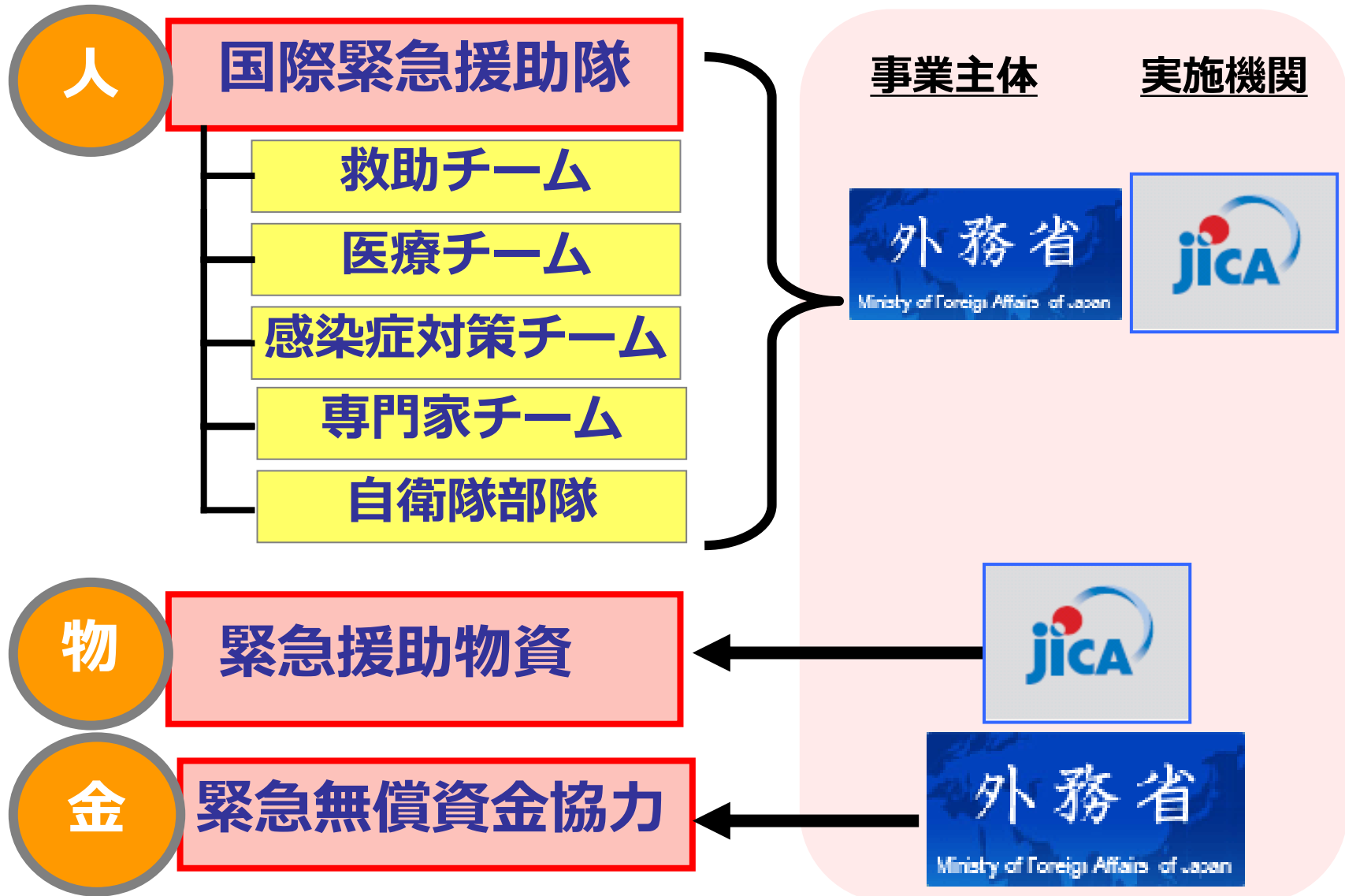
国際緊急援助
隊の派遣に関
する法律 **JDR法**



国際連合平和維
持活動等に対す
る協力に関する
法律 **PKO法**



国際緊急援助の体系と体制



国際緊急援助隊 展開の形態

救助チーム



- 被災者を救出するレスキュー隊。
- 団長以下、標準構成74名。うちレスキュー隊員は49名。隊員は日本全国の消防、警察、海上保安庁から召集される。救助犬4頭も同行。
- その他、医療班、構造調整専門家、業務調整員などが活動を支える。
- 国連からHeavy級チームとして認証

医療チーム



- 被災地で医療活動を展開。
- 団長以下、医療従事者（医師、看護師、薬剤師、各種技師）、ロジスティシャン、業務調整員などで構成。
- JDRは診療所（タイプ1）に加え、手術・入院機能（タイプ2）展開能力についてもWHOより国際認証を受けている。

国際緊急援助隊 展開の形態

専門家チーム



- 発災後の対応、復興支援などを支援・助言。
- 地震・津波、火山噴火、海洋への油流出などで実績。
- 専門的行政官や民間の人材を派遣。

感染症チーム



- エボラ禍をうけて2016年に新設。
- 感染症流行の状況下で疫学、検査診断、サーベイランス、診療・幹線制御などへの支援を行う。

自衛隊部隊



- JDR法第3条
- 想定活動は①輸送、②給水、③医療・防疫など。
- 主に輸送の任務実績が多い（航空機、輸送艦）。人員輸送でも実績。

高度化した国際協調と激しい競争



**United
Nations**



UNDAC

United Nations
Disaster Assessment
and Coordination



INSARAG

Preparedness – Response



KDRT
KOREA DISASTER RELIEF TEAM

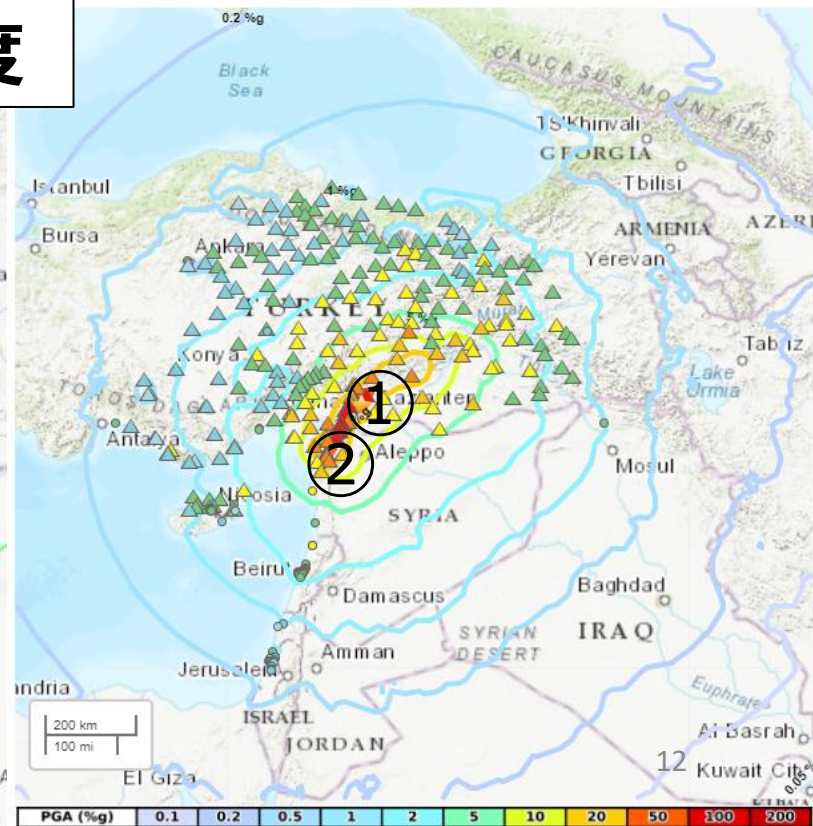
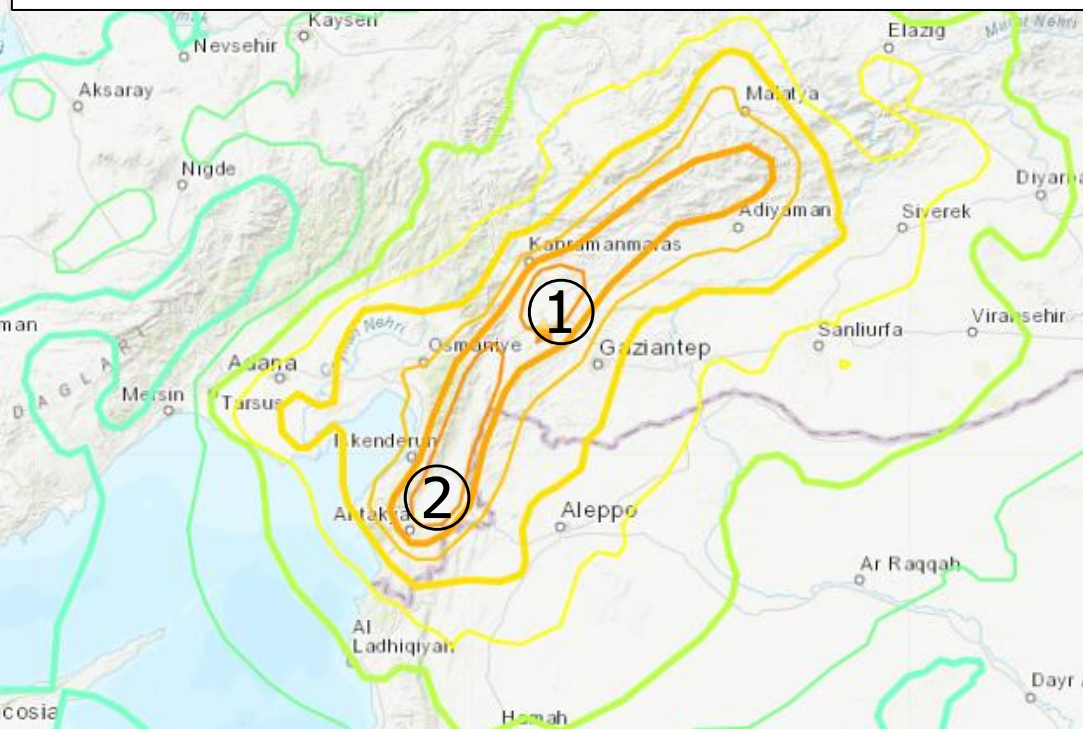


Civil Protection
Humanitarian Aid

地震の概要

- 発災： 現地時間 2月6日 04:17 (日本時間 10:17)
- 震源： トルコ南東部 カフラマンマラシュ県付近①
- 規模： 本震 M7.8 8時間後にM7.5の第二震が発生
余震も継続 2/20にはハタイ付近② M6.4
余震回数 16,551回 (3月22日時点)

(図) 本震の震源域と揺れの程度



被害状況

AFAD発表（3月22日付） [2023_03_24 USG Türkiye and Syria Earthquakes Fact Sheet #13.pdf](#)（3月24日付）ほか

震源域人口 **13.5百万人**（含シリア避難民**2百万人**）

死者数 **50,096人** 負傷者 **115,000人以上**

建物損壊 約**240,000棟**

避難民 約**3.2百万人**

トルコ側 約**2.7百万人**

シリア側 約**0.5百万人**

人道ニーズ **住居 水/衛生**
感染症/コレラ 心のケアなど
復旧・復興

加えて

3月中旬に豪雨洪水被害

トルコ側：

アディアマン サンリウルフ両県
18名死亡 2,000家屋流出

シリア側：

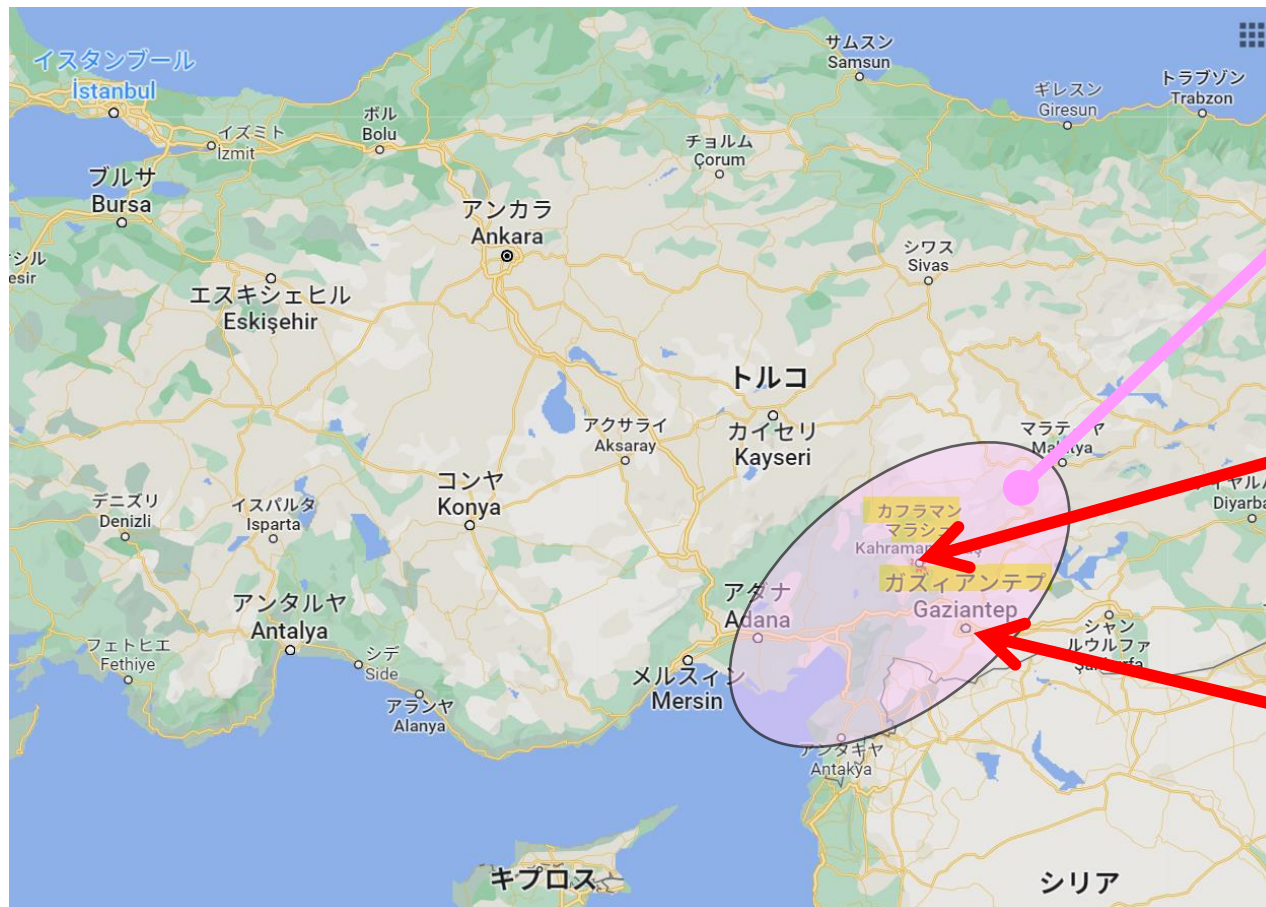
アレppo、ハマ、イドリブ行政区
30避難所 1500テントが被災

トルコ南西部地震 わが国の緊急援助の展開

週	2/6	2/13	2/20	2/27	3/7	3/14	3/21
災害	★2/6発災		★2/20 規模の大きな余震			★3月中旬 豪雨被害	
救助チーム	2月06日～ 2月15日						
医療チーム	1次隊 2月10日～2月27日		2次隊 2月23日～3月09日		3次隊 3月4日～3月16日		※撤収隊最終 帰国は3月24日
自衛隊部隊	医療チーム 資機材輸送	2/13-17 空輸隊				3月14日～26日※ NATO人道物資空輸隊	
専門家チーム					3月6日～16日		
緊急援助 物資供与	★2/10トルコ・シリアへの物資供出決定		★2/14トルコ物資 着 ★2/15シリア物資着		★2/18トルコへの追加物資供出決定		※本部要員 帰国は3月28日
			★2/20追加物資第一ロット着		★3/10最終ロット着		

国際緊急援助隊 活動現場

1999年地震に続き、**救助チーム**、**医療チーム**をいち早く展開。



震源域

救助チーム 活動地点
カフマンマラシュ県
カフマンマラシュ市

医療チーム 活動地点
ガジアンテプ県
オズウェリ市

救助チーム



※撤収隊最終
帰国は2月19日

- 期間 2月6日～15日（10日間）
- 活動地 カフラマンマラシュ県 カフラマンマラシュ市
- 隊員数 74名
レスキュー隊員49名
救助犬およびハンドラー 医療班
構造調整専門家 業務調整員 など
- 特筆事項
迅速な応答 発災後12時間で出国 41時間で搜索開始
援助調整をリード 各国チームの調整をJICAが共同でリード
過酷なミッション 厳寒、車中泊の野営

救助チームの活動



発災は日本時間6日10:17 19:00には第一陣隊員が羽田空港に集結、22:50には離陸。**12時間あまりでの迅速な派遣となった。派遣隊員はレスキュー隊員49名を主軸に総勢74名。**



激震地 カフラマンマラシュに展開 救助犬 4 頭も活躍
 厳寒の中、24時間体制で捜索を行う救助チーム 被災地では下番しても十分な暖を取る事もできず、バスでの休養・就寝が継続した。



10日間の救助活動により6人を発見。
2月11日（発災から130時間後） 隣接する活動現場でトルコの
チームが女児を救出、JDR救助チーム医療班の医師がケアし、無事を
確認。現場は拍手に沸いた。

医療チーム

- 派遣期間・
 - 1 次隊 2月10日～2月27日 (75名)
 - 本邦要員 2 次隊 2月23日～3月09日 (65名)
 - 総勢181名 3 次隊 3月 4 日～3月16日 (41名)
- 活動地 ガジアンテップ県 オズウェリ市
- 隊員構成 団長 副団長 医師 看護師 薬剤師 医療関係技師 (放射線作業療法 理学療法 臨床検査 臨床工学) ロジスティシャン 業務調整員
+ 現地ベース：現地雇上の通訳、運転手等
- 特筆事項
 - 入院外科診療施設 (WHO認証タイプ2) の展開 (初)
 - 自衛隊機による医療チーム資機材の輸送 (初)
 - 医療チーム発足40周年 (3/11盛岡にて記念行事予定)

※撤収隊最終
帰国は3月24日

医療チームの活動



1次隊～3次隊 35日間に及ぶ活動を展開。この間、日本から総勢のべ181人が派遣されたほか、現地では通訳、運転手などが活動を支えた。



JDR医療チーム テント全貌

赤字部分がEMT国際認証による入院外科診療施設（タイプ2）の機能
輸送物資は優に30トンを超えた



医療チームにより合計約2,000件の診療・診察を行った。
 オズウェリは激震地から被災者が多数流入する「後背地」。
 時とともに急性期的症例は減少、急性呼吸器感染症の症例、
 整形外科疾患の疼痛、妊婦・産婦人科系の患者も。



WHO認証を受けた包括的医療機能（タイプ2） メジャー手術の様子



(左) 連日、国内外のメディア対応が続く

(右) 絶えない視察・訪問者。WHOは3回にわたり訪問。また他国チームの訪問も続いた。厳しい競争の中、トルコ政府から活動許可を得られなかったチームも散見された。



緊急援助で現場に入り込むには先方政府・保健省に加え、国際調整の枠組みに入りこむことが重要。先遣された第一陣は、まず保健省・WHO調整ユニット（EMTCC）に席を獲得し、国際調整をリードするとともに、日本チームの地位を確保。

3月11日 盛岡では
JMTDR40周年
記念シンポジウムを開催。

14時46分
東日本大震災と
トルコ南東部地震の犠牲者に
黙とうを捧げた。



同じ日、同じ時刻の
08時46分
日本人、トルコ人スタッフが
ひとつになって黙とうを捧げた

自衛隊部隊の派遣

国際緊急援助隊医療チーム 資機材輸送 2/13～

- 政府専用機 B777型 1機
- 自衛隊機による医療チーム医療資機材の輸送は初めて
- 派遣決定、スケジュール調整、搭載荷卸・自衛隊と共同で任務完遂

NATOによる人道救援物資 輸送への参加 3/14～

- 空中給油・輸送機 KC767型
- パキスタン→トルコへの人道救援物資（テント等）輸送
- JICAは滞在費用、民間機による移動要員等への経費支給など事務面で支える

専門家チームの派遣

- 派遣目的

- ✓ 被害を受けた建物やインフラの状況を確認し、復興・復旧に向けた技術的助言を行う
- ✓ 耐震基準の運用・適用に関する課題を確認し、今後取り組むべき具体的な課題について提言する

- 時期 3月11日～16日

- 団員 11名 国土交通省、JICA

分野： 総括/震災復興 建築計画・構造 土木構造物
土質・地盤 都市計画 ユーティリティ 社会包摂 住宅
プログラム形成/業務調整、援助計画/業務調整

- 特筆事項 1999年地震でも専門家チームを派遣いち早い
復旧・復興、人道から開発へのシームレスな移行過去の日
本・トルコ地震防災分野協力のアセット活用がカギ

緊急物資の供与

トルコ

第一弾

第二弾

供出決定

2月10日

2月18日

到着

2月14日

2月20日- 3月10日

備蓄地

ドバイ

シンガポール

※トルコ航空が支援物資を無償輸送

品目

テント 毛布

毛布 発電機

スリーピングバッド

シリア

供出決定

2月10日

到着

2月14日

備蓄地

ドバイ

※制裁下、商用貨物便がなく、
急遽チャーター便を確保。

品目

テント 毛布 スリーピングバッド プラスティックシート

配布

シリア赤新月社に引き渡し 同社が配付

同時並行で実施した緊急援助

緊急援助隊の派遣

フィリピン

ミンドロ島沖タンカー沈没事故
油流出被害に対する
緊急援助隊専門家チーム



緊急援助物資の供与



イラン地震災害



チリ森林火災



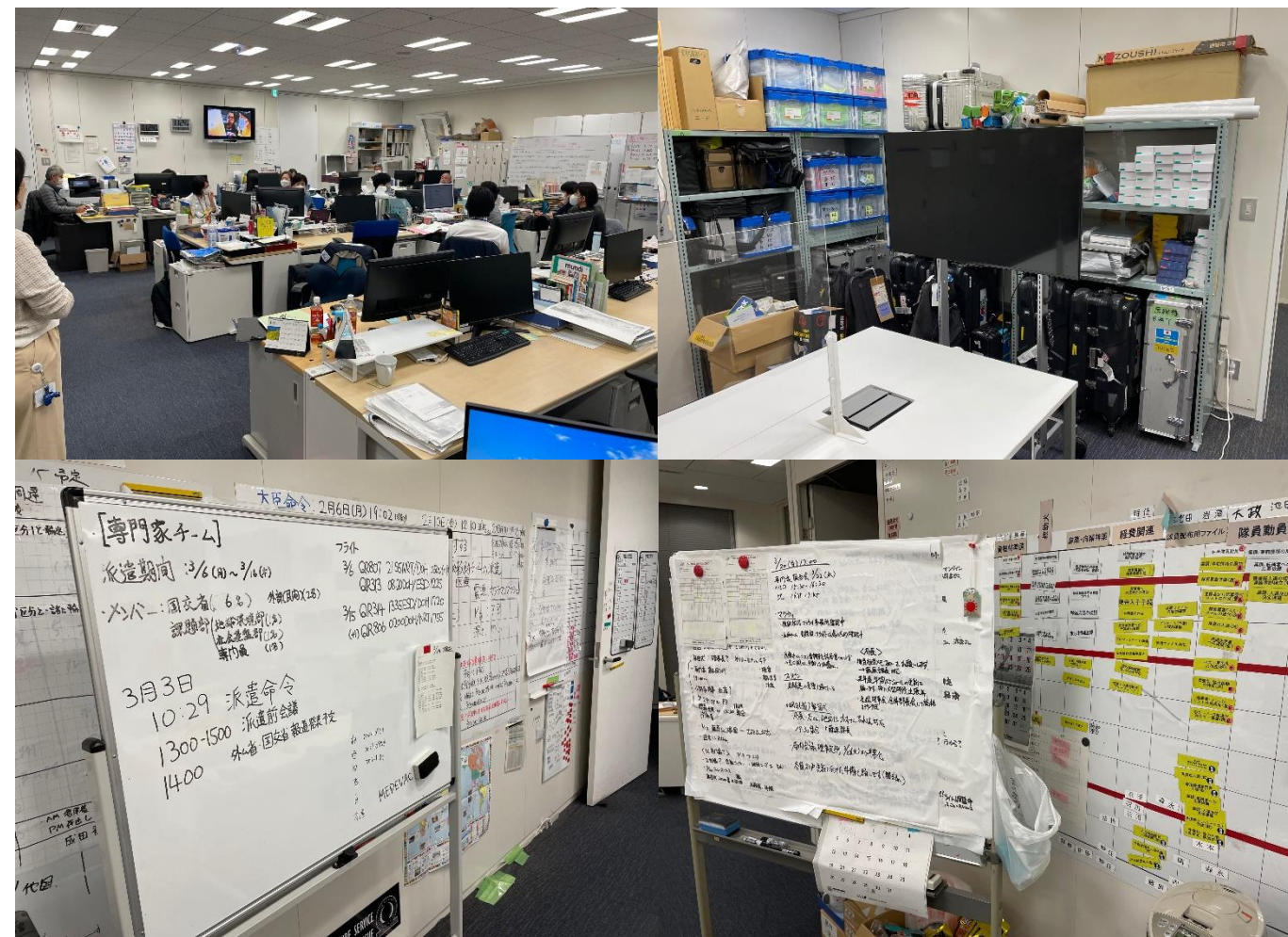
バヌアツ サイクロン



南部アフリカ サイクロン フレディ
マラウイ
モザンビーク

オペレーションを指揮・支援した 国際緊急援助隊事務局

事務局員のほとんどは救助チーム、医療チームに帯同し、現地へ。
残留要員はJDRロスタースタンバイ要員とともにオペレーションを総合指揮・支援した。



左) オペレーション中の
局内の様子
一日3～4回の
全体ミーティング

右) 初動に必要な
特に重要な機器等
を局内に備蓄

左右) 壁一面に張り巡
らされた共有情報や
手続き進行を確認する
パネル